2025市労連総決起集会　in　中央区民センター

久元市長に交通職場の現状と課題を訴える

10月2日の18時30分より、神戸市中央区文化センターで神戸市労連総決起集会を開催しました

決起集会では、北川委員長が賃金確定闘争と神戸市長選の必勝を呼びかけました。また、来賓で参加された久元市長より、職員に対して感謝の意を述べるとともに、市長選への決意が述べられました。最後は、小原副委員長の団結ガンバローで、全員の意思統一を図り集会が締めくくられました。

決意を述べる久元市長

神戸市労連は10月2日18時30分より、神戸市中央区文化センター1001号室において、「市労連総決起集会」を開催しました。

集会の開会にあたり、市労連の北川執行委員長より、「賃金確定交渉の前進と、10月12日告示の神戸市長選で現職・久元喜造市長の必勝を期し、全員で投票行動を広げよう」と挨拶がありました。

続いて、久元市長が登壇し、はじめに職員への日頃の感謝を述べるとともに、「神戸が元気であるためには、市役所が元気でなければならない。そして市役所が元気であるためには、一人ひとりの職員が元気でなければならない。」と強い思いで語られました。

また、この12年間の市政を振り返りながら「コロナ禍や人口減少、財政制約など厳しい環境の中で職員が市民生活を支えてくれた。」と感謝が述べられました。

続いて、「人員不足や採用難といった現実にしっかり向き合い、働きやすい職場環境と誇りを持てる市役所づくりを進めていく。」と強調しました。さらに、「神戸の未来をもう一度前へ進めたい。そのために職員とともに歩む姿勢を貫く」と再選への決意を述べました。

その後、各単組の代表者より、久元市長に対して、現場の課題や要望などを訴えました。

神戸交通を代表し、佐藤自動車部長より、市バス・地下鉄における課題について、次のように報告しました。

■　佐藤自動車部長

市バスはコロナ以降、利用者が16％減少し、収入も10億円以上減りました。燃料費や人件費の高騰も重なり、来年度には33路線１３１本が減便され、一部地域では交通空白地帯が生まれています。

次に、人材確保のため、採用年齢を49歳まで引き上げたものの高齢層が中心となり、短期間で昇給停止や昇格制限が生じるなど新たな矛盾が生まれています。

また、整備士不足についても、応募がほとんどなく、待遇の良い民間ディーラーに流出しています。安全輸送の根幹が揺らぎかねません。

地下鉄については、サービス改善は進んでいますが、ワンマン運転化や駅員削減が急速に進み、安全と利用者対応の両立が難しくなっており、数字や効率だけではなく、市民の暮らしの視点に立った路線・ダイヤ・人員配置の見直しを行うよう訴えました。

■　久元市長

久元市長は交通現場の課題に対して丁寧に応じ、現場課題の重さを共有しました。

バスや地下鉄をめぐる課題については、市営交通に限らず、民間バスにも共通する深刻な問題であると指摘しました。都市部でも路線廃止や減便が相次いでおり、大阪府内でも同様の現象が見られる。その背景には、利用者の減少、運転士の確保難、燃料費や資機材の高騰など、複合的な要因がある。

こうした状況の中での対応は容易ではないが、神戸市バスが引き続き市民への責任を果たしていけるよう、民間との役割分担を含め、行政が主体的に関与していくことが必要である。また、職員が安心して働ける職場環境の整備を進めることも重要である。

さらに地下鉄においても、安全確保を最優先とし、十分な人員配置を行うことが不可欠である。近年は鉄道や新幹線での事故が増加しており、東急田園都市線での衝突事故も発生している。こうした事例を踏まえ、すべての事業者が「安全第一」を原則に、人員体制の充実によって事故を防ぐ仕組みを整える必要がある。

交通局は市長の直轄ではなく、公営企業管理者が責任をもって対応する体制となっている。私は定期的に管理者と意見交換を行い、業務が円滑に進むよう自分の立場からしっかり支援していく。と述べられ、現場支援の継続を約束しました。

最後に、「公共交通は市民生活の基盤であり、現場職員の誇りと安全を守ることが神戸の持続可能な発展につながる」と久元市長から強い思いが述べられました。

各単組報告の後、市労連の小原副執行委員長より、「各現場の声を神戸市政に反映させ、賃金闘争と市長選勝利に向け一致団結して取り組もう」と挨拶があり、「団結がんばろう」で閉会しました。

発行元
神戸交通労働組合
〒653-0004
神戸市長田区四番町2-1-2
神戸交通労働組合会館
TEL　078-575-6712
FAX　078-575-3848
編集発行人
佐藤　秀樹
毎月15日発行
定価1部10円
組合員の購読料は組合費に含む

2025神戸市長選挙

対話を重ねる市政の継続のため久元候補の必勝に全力で取り組む

10月12日告示、10月26日投開票で神戸市長選挙が行われます。市民の暮らしはもとより、私たち職員の働く環境を左右する重要な選挙であり、神戸交通は、久元喜造候補を推薦することを決定しました。

市政のあり方が問われる中、現場を支える職員の視点から、神戸の未来と市長選の争点を検証する。

神戸市内各所を回る久元喜造候補の選挙カー

10月12日告示、10月26日投開票で行われる神戸市長選挙は、市民の暮らしと職員の働く環境を左右する重要な選挙となります。

神戸交通は、現職の久元喜造候補の推薦を決定し、4期目の市政運営を支援していくこととしました。

久元市政の12年間で、市政運営の安定とともに、現場の声を踏まえた制度改善が進められてきました。

市民病院機構ではコロナ対応を中心に医療体制を強化し、水道や交通などの公共インフラ部門では、作業手当の創設や人員確保策など現場を支える施策が展開されてきました。

また、教育現場ではICT整備の推進や教職員負担の軽減など、現場の改善に取り組んできました。

一方で、物価高騰や人手不足など行政を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

特に交通、医療、教育、福祉の各分野では、現場職員が減少し、サービスを維持するための負担が大きくなっています。

神戸市労連は、こうした実態を踏まえ、「現場で働く仲間の声を真摯に受け止める市政を継続しなければならない」と考えており、久元市長が示す「安全最優先」「現場重視」の姿勢を高く評価しています。

市長選の主要な争点は、公共サービスの維持と人材確保、そして市民生活を支える持続可能な財政運営であります。

市民病院の赤字問題や交通事業の採算性など、簡単に解決できない課題が山積する中で、久元市長は「数字だけでなく、人と地域を大切にする市政を」と繰り返し訴えています。

また、労使関係においても、神戸市労連との定期的な協議を通じて課題を共有し、制度改正や現場改善につなげてきました。

市労連総決起集会で、北川委員長は、「現場を理解し、対話を重ねる市政を継続してほしい」と語り、「労使が共に知恵を出し、市民に信頼される行政をつくることが大切」と呼びかけました。

選挙戦は激しい争いが予想されますが、私たちにできることは明確です。

一人ひとりがこの選挙の意義を理解し、職場や家庭、地域の中で対話を広げることです。

市民の暮らしと職員の働く誇りを守るために――。

10月26日、私たちの一票が神戸の未来を決める。

コラム【選挙ボランティアについて】

神戸交通は、2025神戸市長選挙で選挙カーの運転手を全て担当し、18名の仲間がボランティアとして参加しています。

なぜ労働組合が選挙に関わるのか――それは、現場の声を市政に届けるためである。

公共交通を守る政策や職員の働く環境は、市長と議会の判断によって大きく左右される。だからこそ、現場を理解し、働く人に寄り添う候補を支えることは、自分たちの職場を守る行動にほかならない。

選挙カーを走らせ、市民に政策を伝える「声を運ぶ」活動は、まさに交通労働者らしい支援のかたちです。一人ひとりの参加が、より良い神戸をつくる力になります。

今後も、私たちは現場から社会を動かす労働組合であり続けたい。

組合員資格の公示

組合員資格を取得及び喪失を確認された方々について、神戸交通労働組合規約施行規則第10条（加入）、並びに第11条（脱退）に基づき公示します。

（敬称略）

加入

乗合自動車運転士	中林　翔太
乗合自動車運転士	山田　和輝
乗合自動車運転士	藤井　義孝
地下鉄駅係員	宮崎　勝太郎
地下鉄駅係員	滝本　琉汰
地下鉄駅係員	梶原　拓徒